

講演会・講習会

NPO 法人 調布心身障害児・者親の会 ぴいす

〒182-0017 東京都調布市深大寺元町 4-7-12

助成事業の概要

実施目的：運営しているB型は利用者の障害の特徴に合わせて柔軟な就労体制でありたいと願っている。職員が利用者一人一人の就労体制に寄り添い研修や教育で身につけた知識を生かして、様々な場面で臨機応変に対応できるような力を身につけることが講習を受ける目的である。

時期：(1) 2022年7月1日
(2) 2022年7月21日
(3) 2023年3月9日

内容：(1) 「精神障害とは」精神保健指定医
精神障害とは？知的障害とは？という定義、知的障害の特徴、「知能検査」の種類、「愛の手帳」の判定基準について、知的能力障害群、知的障害と発達障害の違い について学んだ。
(2) 「障害者虐待防止法の目的」～支援の本質を考える～ 東洋大学教授
知的障害者からの声、「障害者および虐待」の定義、なぜ虐待は許されないのか、障害者虐待の防止法の目的、障害者虐待防止法の定義、障害者虐待防止法のスキーム、虐待が起こりやすい構造、虐待判断に対する判断1.2. 虐待と不適切ケア について学んだ。
(3) 「強度行動障害支援と情報の大切さについて」社会福祉法人事業管理者
現場の様子を例に挙げ問題点・工夫点や具

体的な自立支援を学んだ。

(2)と(3)はプロジェクターを使い、内容をプリント配布してくれたので、何回でも学習できる。

事業の成果

2022年度に3回の講習会と講演会を受けた成果としては、基本的な考え方を学ぶ事ができたことである。というのも、スタッフ14人のうち非常勤は8人で、障害福祉を学んだことのない他分野からの転職者が多く、「利用者との関わり、支援をしたら良いか」という不安を抱えている職員もいる。その職員の福祉の基礎的な知識、定義や実践的な話を講習会を通して各講師から聞いて、スタッフが利用者を支援する上で自信を持って対応できるようになった、と言う声が多くあり、これは大きな成果である。

2022年度はコロナ禍とはいえ、対面で講習会を受けることができ、質疑応答の時間を設定していただき、普段思っている疑問点・不明点や確認したい事を直接伺うことができ、様々な点が明確になったことも大きな成果である。

講習を聞くと言うことは、職員個々が利用者への支援に役立つことだけでなく、職員の共通認識を持つことができると同時に言葉と意識に共通性を持つという相乗効果も得ることができた。講演・講習を聴いた成果である。

また利用者にとって当施設で過ごす時間は社会との接点であり、社会的な生活サイクルを守るもので、家庭以外でいきいきと生活してゆく居場

所でもある。その時間は有意義なものであって欲しいと願うと共に、職員が自信を持って対応していくために、受講したことは大きな自信につながった。

当施設は利用者にとって「帰属意識」が持てる集団と施設でありたいと願っている。それには職員自身が施設の内容に対して興味や関心を高め、モチベーションをあげて活性化しなければならない。研修で得た知識と専門性はその活性化に寄与し、施設に還元され、活用できる。

講演会・研修会を受講したことで、スタッフが障害に対する理解を深め、障害者と共に生きる社会を実現することに大きくつながっていくものと確信できたことは大きな成果である。

残念ながら、2022年はコロナ感染があり、当施設もクラスターが心配で予定の研修を実施することができなかった。しかしながら残りの研修を繰り越して開催することにし、2023年6月3日「障害者虐待防止とは、本質的な支援をすること」と題して高山直樹東洋大学教授から研修を実施した。

成果の広報・公表

職員の日常支援業務にあたり、知識の拡大・獲得及び共有を図り、資質向上を目的として職場内の研修を企画し実施しました。

令和4年7月1日（金）

「精神障害とは何か？とりわけ強度行動障害について」（特医）法人研精会東京さつきホスピタル藤枝誠院長。

同年7月21日（木）

「虐待とは何か？対応について」東洋大学福祉社会デザイン学部教授。

令和5年3月9日（木）

「強度行動障害の理解と支援」社会福祉法人同愛会大泉つつじ荘。

の3者をそれぞれ招き研修を実施しました。

少人数で質疑応答等講師との身近な距離で話を聞くことができました。今後、職員間での日常的支援の検証及び確認に役立つところが大です。高山先生の関連するテーマでの継続研修等予定でしたが、新型コロナの影響で実現出来ませんでしたので、保護者参加に拡大し研修の継続実施を実現したいと思います。

以上、助成金による研修実現は、大きな成果がありました。厚く感謝します。

今後の展開

私達の大きな目的は障害者と共に生きる社会の実現である。

この事を念頭において今後の展開を考えたとき、共に生きる健常者の理解を深めることが必要であり、障害福祉施設の職員は障害者とどのように向き合うか、支援するかが求められる。

更に利用者の体調や障害にあわせて寄り添い、さまざまな場面で臨機応変に対応できる力も求められるのだ。2023年度は、昨年同様職員の福祉に対しての教育に力を入れると共に、障害者がいきいきと生活できるような支援を実践することを目指し、展開へと導きたい。

講演会や研修を受けて昨年度同様、職員の福祉に対しての知識と応用を身につけ、利用者へのサービスにつなげていきたい。

福祉サービス支援業務向上のための研修は豊かな福祉社会の実現に寄与できるものと確信している。「障害者と共に生きる社会」の実現を目指して業務展開していく所存である。